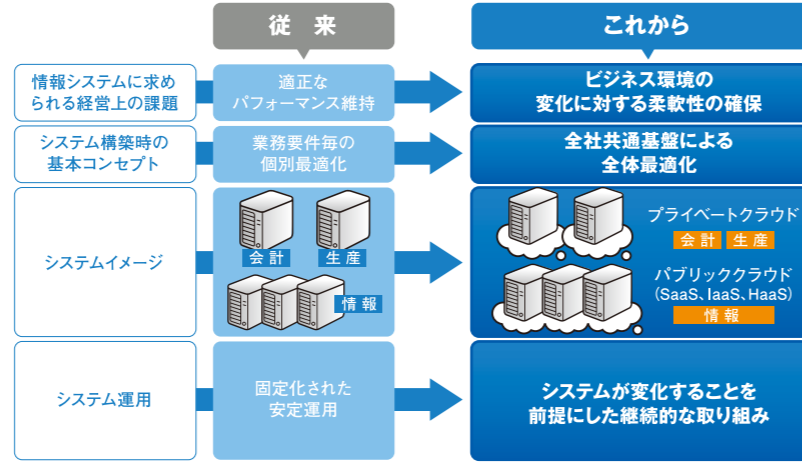


# 継続的なシステム運用最適化で お客様のSAPシステムを本物に

## 運用に対する取り組み方を変える必要性

従来のシステム運用では、システムの安定稼働や適正なパフォーマンスの維持に重点が置かれていましたが、最近ではM&Aに伴うシステム統合や、新しいビジネスへ対応するために今まで以上にシステムを柔軟に対応させることが求められています。またシステムだけでなく、自社の業務プロセスそのものも見直すことで、将来起こりうる様々な変化に対してより一層迅速に対応することが期待されています。そのためにはシステム構築時の最適化だけでなく、システム運用業務自体も、システムや運用が常に変わり続けることを前提に、継続的な運用最適化の取り組みを行う必要があります。

### ●これからのシステム運用



## システム運用を通じた企業価値向上

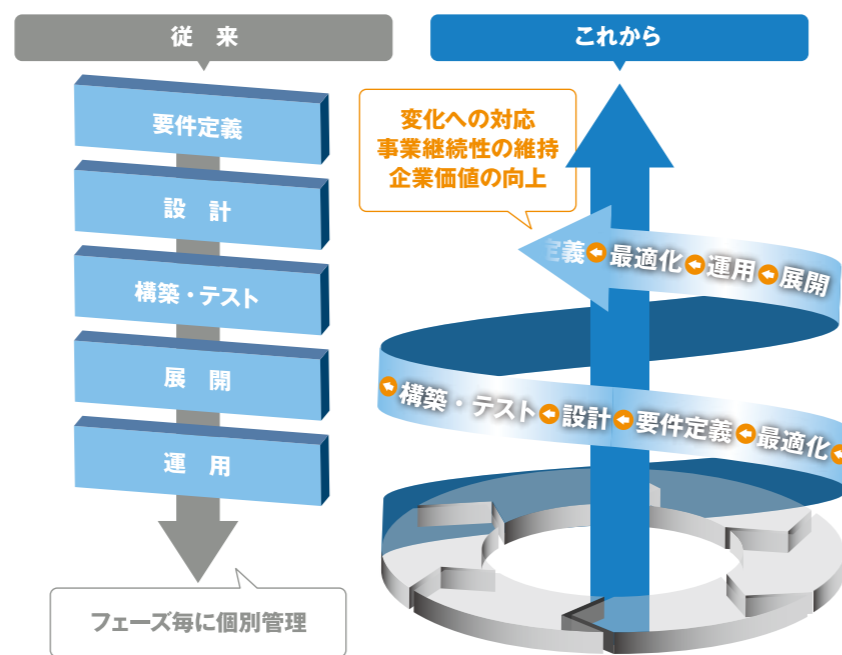
インターネットを積極的に活用した新しいビジネスやモバイル連携など、ビジネスを取り巻く環境は刻一刻と変化しています。それに伴って求められる新しい業務要件に迅速に対応するために、システムの拡張や複数システムの連携ニーズが高まっています。SAPシステムもその例外ではなく、その複雑性は高まる一方です。変化し、複雑化し続けるシステムを適切に管理し、業務部門から求められる様々な要求に対して迅速に応えるための新しい考え方が、アプリケーションライフサイクル管理 (ALM) です。個々のシステム毎、フェーズ毎に管理するのではなく、アプリケーションのライフサイクル全体を俯瞰し、継続的にシステム運用を最適化していくことで、変化に対して柔軟に対応し、事業継続性を維持するとともに、企業価値を向上します。

## Run SAP方法論とは

アプリケーションライフサイクル管理を実現するために、Run SAP方法論を活用してお客様のシステム運用を継続的に改善します。

Run SAP方法論には、自社システム運用の標準化の指標となるIT業界標準や具体的な導入方法、そして実装するためのツールが既に提供されています。よってSAPシステムを既に導入されているお客様にとっては、すぐにも取り組み可能な環境となっているのが最大の特徴です。

### ●アプリケーションライフサイクル管理「ALM」の位置づけ



Run SAP方法論に含まれる内容	ツール
ベストプラクティス	トレーニング
ロードマップ	サービス

## SAP標準ツールを採用する3つの理由

### ①プラットフォーム非依存

SAP製品は原則マルチベンダー対応のため、特定のOS・DBMSなどプラットフォームへの依存を最小限に抑えることができます。また、システムの標準化やクラウドへの移行などの要件にも柔軟に対応します。

### ②クラウドに最適なライセンス体系

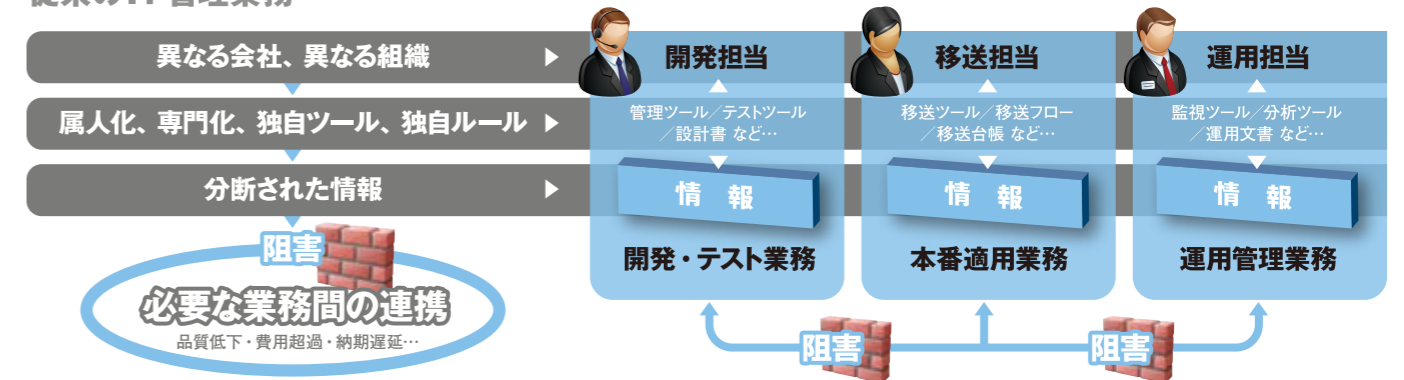
SAP Solution Managerは、SAP社の保守契約に基づいて提供される製品であり、クラウド環境に求められるダイナミックなシステム追加変更にも追従しやすいライセンス体系となっています。

### ③製品提供ベンダーならではのノウハウ集約

多岐にわたるソリューションを積極的に活用し、継続的に管理するためにはソリューション提供ベンダーであるSAP社のノウハウが不可欠です。



## 従来のIT管理業務



## ALM概念を活用したこれからのIT管理業務

